

皆さんこんにちは。この六月から小平市社会福祉協議会の会長職を引き受けました。もとより微力ではございますが、地域での仕事の経験を生かしながら、多くの皆様のお役に立てるよう努めてまいりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

小平市社会福祉協議会も今年で、法人設立以来四十五年目を迎えました。小平市の市制施行に遅れること五年、先人の皆様のおかげで、黎明会様を始め、小平市内の多くの社会福祉法人の皆様にご厚誼をいただいてまいりました。特に黎明会様におかれましては、今日まで、社協の事業のために、貴会所有の大型バスをご提供いただいたました。特に「身体障害者福祉大会」では、会場として、ホールをご提供いただいたました。

皆さんこんにちは。この六月から小平市社会福祉協議会の会長職を引き受けました。もとより微力ではございますが、地域での仕事の経験を生かしながら、多くの皆様のお役に立てるよう努めてまいりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

また、ボランティアの受け入れや育成に関しましては、精神保健福祉法の改正により、それまで、医療分野とされおりました精神障がいの分野が福祉分野に移行され、福祉の面からも支援が求められました。そんな中、貴施設「あかつき」では、早々に、精神障がい者のボランティアを受け入れていただき、現在まで、喫茶を運営させていただいております。また、「夏体験ボランティア」の受け入れ施設としても積極的に受け入れに努めてください、福人材の育成に大きなご協力をいただいております。

昨年度からは、地域包括支援センター「けやきの郷」をモデル地区に、高齢者の介護予防と見守りを兼ねたボランティアの育成に社協とともに、お取り組みをいたしました。昨年度は、二十一

また、ボランティアの受け入れや育成に関しましては、精神保健福祉法の改正により、それまで、医療分野とされおりました精神障がいの分野が福祉分野に移行され、福祉の面からも支援が求められました。そんな中、貴施設「あかつき」では、早々に、精神障がい者のボランティアを受け入れていただき、現在まで、喫茶を運営させていただいております。また、「夏体験ボランティア」の受け入れ施設としても積極的に受け入れに努めてください、福人材の育成に大きなご協力をいただいております。

近年、小平市社会福祉協議会は、小平市内の福祉全般にわたる中核的機関として、多くの皆様から、様々な役割を期待され、急速に事業規模が増大しております。職員もまた、福祉の専門



小平市社会福祉協議会 会長 金子恵一

皆さんのお役に立てる 「福祉の一一番店」をめざして



No.119
編集・発行人
黎明会
〒187- 東京都小平市
0032 小川町1- 485
☎ 042-346-6611
<http://www.reimeikai.or.jp/index.html>

人の見守りボランティアの育成をすることができ、地域の高齢者生活支援が一步も二歩も前進することができます。その他、今年で十九回目を迎えた「障害者週間のつどい」は、社協が黎明会様とともに立ち上げ、多くの住民の皆様に、広く障がい者福祉についての関心と理解を深めていただき、障がい者の社会参加に大きく役立つことができました。

また、社協が、高齢者の介護予防や日頃交流の少ない高齢者の気軽なふれあいの場として、開設しております「ほのぼの広場」では、職員の方に陶芸の指導をいただいているところでござります。熱心なご指導のおかげで、見事な作品が出来上がり、参加高齢者の生きがいのひとつになっております。

このように、社協の活動が順調に推移、進展しておりますのも、地域の皆さんのご協力はもちろんですが、同じ社会福祉法人として、また関係機関との連携とご協力の賜物でございます。

これからは、行政とその補完的な連携の取れた関係が築けるような組織作り、また、住民の皆様の細かな生活

福の世界は、大きく動いておりますが、「故きを温ねて新しきを知る。以って師となすべし。」と論語にもございます。これもまた忘れてはいけないことだと思います。

変心強く思う次第です。地域の皆さんとの連携やボランティアの受け入れを積極的に行い、特に「医療」「介護」「生活支援」各分野の総合福祉サービスを幅広く展開されている黎明会様とは、これまでにも増して、連携の強化とともに、ご支援をいただきたいと考えております。

加えて、行政からの支援があればこそできるところですが、先駆的、開拓的な事業を推進する組織作りにも真剣に取り組んでいかなければならぬ時期が来ているようにも思われます。法による様々な福祉支援の最終決定は、行政にお願いするところですが、住民の皆さんには、「福祉のことば、まず何でも、社協に相談する」とが「一番」と思つていただけるよう、「福祉の一一番店」を目指すつもりであります。これからもどうぞご協力、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

日本社会事業大学院 福祉マネジメント研究科を卒業して

診療施設 南台病院 看護科長 三浦りつ子

1はじめに

黎明会では平成22年度より「派遣研修制度」が発足し、私は平成23年度第2期生として、指定法人推薦を受け日本社会事業大学大学院福祉マネジメント研究科にて一年間学ぶ機会をいただきました。今回この紙面をお借りして、一年間の派遣研修報告を行わせていただきたいと思います。

2 福祉専門職大学院とは

福祉マネジメント研究科は、社会福祉分野における高度で専門的な職業能力を有する人材の養成を目的とした福祉専門職大学院であり、これまでの実践を振り返りながら、福祉専門職としての次のステップを目指す学びの場として2004年開設されました。専門職大学院はそのようなニーズに応えて、最新の知識と技術を習得できるカリキュラムを導入し、ケアマネジメントコースでは福祉サービスにおけるスーパーバイザー、ビジネスマネジメントコースではマネージャーとしての役割を担うことができる福祉サービスのマネージャーができます。福祉マネジメントコースは、福祉領域にマッチした人的資源管理や財務・会計の方法を習得し、ケースメソッドなどによって多角的、重層的な発想法を知ります。ここでは事例研究を中心とした

講義や演習、実習を通して専門的技術を習得します。また、福祉サービスを供給する株式会社、NPO法人、社会福祉法人等の各種法人の実践者による実践報告は、福祉ビジネス経営を多角的に明らかにし、その課題に対する対応策を検討し問題解決能力を養います。

実習については、自分が実践してきたフィールドの中で、それまで抱えてきた問題意識を表面化させ、テーマを設定し、その課題解決に向けた方法を自分の職場で実践、検証し、その結果を報告書にまとめていきました。

3 一年間をふりかえって

専門職大学院は、全国の現場から年齢も職歴も経験もさまざまな人たちが集まっています。ある意味その道のエキスパートの方と共に学び意見を交わることは、とても新鮮で刺激的でした。また、第一線で活躍する経営者の方々がゲストスピーカーとして講義をして下さり、経営の視点で組織をマネジメントしていくことは、さまざまな講義を受け、先生や、スキルを習得していく中で、自分の想いにギャップがあり、現場での実践に結びついでいるという課題を抱えていました。

入学後、さまざまな講義を受け、先生方や仲間との関わりを深めていくなか、あり方を変えるということはリーダーが自分自身の「モチベーションマネジメント」をいかに行つていくかと考えるようになりました。人をリードするということは、自分自身が活力を保ち自分に納得していることであり、自分を適切に認められなければ人を認め鼓舞することもできないと思うようになりました。

授業内容は、一年間で学ぶにはあまりにも濃密で、ビジネス用語等聞きなれない言葉も多く日々苦労の連続でした。特に福祉経営塾は、経営分析や会計、福祉税務や財務諸表論等不得手な科目ばかりで落ち込むことも多々ありました。同期の仲間に助けられ、先生方の指導により何とか履修することができ、学びの向上に繋がる視野を広げていくことの大切さを学びました。

実践報告書においては、所属する病院をフィールドに、「看護科長の役割とリーダーシップの再構築」について3つの視点から取り組みを行い報告書にまとめました。

私は看護・介護サービスを提供する病

棟の責任者として、その責務を全うするために、看護・介護の質を保証し、絶えず改善しながらスタッフが十分に力を發揮していける環境作りを行い、サポートすることが重要だと感じていました。さらに、スタッフが働きやすく、やりがいを持って働ける職場とは何かを常に考え、マネジメントしていくことの必要性を感じしていました。

このような中で、私自身、組織をマネ

ジメントする能力および実践力、コミュニケーションスキルが不足していることや、スキルを習得していたり、あるいは、現実

に捉える体験ができたことは、自分の強みや弱みがわかり、まだ未熟ではあります。自分が看護管理を深めていく中で役立ついくことを実感しました。

4 あらたな一步

この4月から、私は新たな部署で、新たな仲間たちとスタートしました。この一年間、学んできたことをどのように活かしていくか、または活かされていくか自身日々探求していき、仲間とともに成長していきたいと思います。そして「学ぶことは年齢とは関係なく、自分が学びたいと思うことが大切」であり、この可能性を忘れずに学び続けていこうと思

ます。ともに学んできた仲間の存在と先生方、大学院での学びは一生の財産になります。また、私は新たな部署で、新たな仲間と一緒に成長していきたいと思います。そのためには、自分自身が活力を保ち自分に納得していること、自分を適切に認められることが大切です。

入学当初、多忙過ぎる日々と慣れない環境への不安、講義と課題をこなすこと精一杯でしたが、職場の温かい配慮と温かい励ましで無事に修了することができました。最後に、今回このようなチャンスを与えて下さった黎明会に感謝します。ありがとうございました。

高齢者見守りボランティア講座

「地域の高齢者の見守り、支え合い」

地域包括支援センターけやきの郷 所長 池島祐二

去る7月19日（木）に黎明ホールで、NHKの番組『難問解決！ご近所の底力』に出演の住民福祉総合研究所代表、木原孝久氏が来場。近隣の方々を対象に「地域の高齢者の見守り、支え合い」についてご講演いただきました。この講演会は、介護予防見守りボランティア事業の一環として小平市健康福祉部介護福祉課、小平市社会福祉協議会ボランティアセンター、小平市地域包括支援センターけやきの郷の共催です。

第46回関東地区救護施設研究協議会

権利擁護と一人ひとりの自己実現に向けたサービスを目指して
うご利用者が求めるサービスとは、

〔本人紹介〕

尊重する前提として、まずは利用者の選択肢を広げるような援助も併せて実施していく必要性を感じました。

「大震災と原発事故からの 復興」に向けた

復興に向ひて

去る平成24年6月28日から29日まで、さいたま市のラフレさいたまにて、第46回関東地区救護施設研究協議会が開催されました。あかつきからは私を含め、4名の職員が参加させていただきました。その際私が感じたこと、学んだことについて報告させていただきます。

第一日目【中央情勢報告】

西 豊美会長より
昨年度の関救協は、未曾有の大災害をもたらした東日本大震災の影響により中止となり今年度再開されることとなりました。以下の①～④は、東日本大震災への対応として、全国救護施設協議会が実施した支援の内容です。

第一分科会

第二分科会
A「ご利用者の人権に配慮した
サービスのあり方」
B「自己決定を尊重する支援」

救護施設を取りまく環境への
対応と機能強化

- A「ご利用者の人権に配慮したサービスのあり方」
- B「自己決定を尊重する支援」
- C「ご利用者が求めるサービスとは、適正な支援」「制限行為と過度な支援」

私は、Bの「自己決定を尊重する支援」に参加させていただき、
葉県松風園、静岡県葵寮から発
表いたしましたが、紙面の都合により、
静岡県葵寮からの事例省略のみ、

③ JDFみやぎ支援本部への職員派遣協力。

④被災地支援にかかる情報収集提供活動。

ご利用者本人の強い希望で仕事を探すことになつたが、なかなか

本人の希望に沿うような仕事が見つからなかつた。努力しても思い通りにならないと言う焦りから、自傷行為や体調を崩すことが増えた。そこで、本人が希望している

講師 馬場 有氏（福島県浪江町長）

福島第一原発から10.5キロの位置にある、救護施設浪江ひまわり荘

懸命に仕事を全うされたと聞きました。同業のものとして、本当に頭の下がる思いでした。

今年の2月下旬には、これまで西郷村の施設へ分散し、ばらばらに生活していたご利用者が、同村に建設された仮施設に入居する事が出来たとのこと。ご利用者の表情にも明るさが戻ってきたとのお

話でした。

今後も復興に向け、様々な困難があると思いますが、私なりに協力できるようであれば、協力していきたいと感じました。

“いつまでも健康で”そんな願いを込めて、平成24年9月2日（日）ガーデンハイツ小平にて南台病院陶山院長を講師に「南台病院健康講演会」を開催しました。講演は「運動器症候群（ロコモレティブ・シンドローム）の病態像と治療」をテーマにその代表的疾患（腰部脊柱狭窄症・椎間板ヘルニア・脊椎圧迫骨折・骨粗鬆症）の説明とその治療という内容で進められました。

演題の運動器症候群「ロコモ」とは、運動器の障害による要介護の状態や要介護のリスクの高い状況を示す言葉で「メタボ」や「認知症」と並び「健康寿命」「ねたきりや要介護状態」の3大要因の一つになっています。これらを予防するには早期発見と治療がきわめて重要です。本講演企画の目的もここにあります。

参加者の皆様はチラシのサブテーマでもある「健康で快適な老後を過ごすため」に関心を寄せられた様子で、会場一杯となる40名という多くの方にご参加いただきました。

講演後は、当院のリハビリスタッフによる実演指導を行い、参加

者の方々に実体験していただきました。

その後、活発な質疑応答をもつて終了しましたが、参加者の感想として「分かりやすかった、実演指導はありがたい」等のお言葉を多く頂戴しました。

今回の参加者の皆様が、本日から「健康博士」になつていただきたいとの思いを胸にセミナー会場を後にしました。

最後に、今回の講演会が、ガーデンハイツ小平管理組合の皆様のご協力をいただき開催できましたことを心よりお礼申し上げます。（医事課地域連携担当者 谷口）



ガーデンハイツにて講演会

10年目研修に参加して

診療施設 南台病院
薬剤科 齊藤初枝



去る平成24年7月7日、黎明ホールにおいて、株式会社エイデル研究所経営支援部課長の石井光恵氏を講師として、法人主催による勤務10年目、15年目研修が実施されました。私は10年目研修の対象者として、研修を受講しました。

本研修の目的は「法人理念の理解を深め期待される職員像を確認し、さらなる成長を目指す自己目標を立案すること」です。この度、法人主催の10年目研修を受講したことにより、最近の情報を確認し、グループワークから目標の共有化をし、大変意義深いものを感じ貴重な時間を過ごしました。

私は、黎明会職員として理念を意識し、実現するために働いていたことを確認しました。

理念は、全ての職務行動において貫かれるべき考え方・概念として職員の意識が統一され、一体感が高まります。また黎明会職員として持ちたい三つのA「◎あかるい◎あたたかい◎あいさつがうまい」これらを実践して、より求め

られる職員像を具現化していくます。職員一人ひとりの質・能力の向上は、サービスの質の向上であり、それらを追求することにより理念との融合化が図れます。自己も他者も信頼できる職場を確保し、適正な評価と育成を図り、人材育成から目指す組織文化へ、帰属意識の高まり、定着へと導いていくことが極めて重要であることを実感しました。

グループワークを通して、さらなる成長を目指す自己目標を立案する事ができました。

様々な視点から考慮し、可能性は無限大にあると確信しました。その視点を的確に把握し、常に理念実現の為に、個人としては職務を改めて振り返り、何を高めたたらよいか、職場の期待に応えるにはどのようにしたらよいか、技術、能力向上として挑戦したいことは何であるか、それらのことを踏まえて活かしていきたいと思います。



ふれあい短信

黎明寮のみちのくの旅

黎明寮ボランティア 清水弘一

今年の7月初旬黎明寮の皆さんと松島・秋保温泉旅行に同行した。松島観光を終え、秋保温泉に宿泊。二部屋の男子7名連れだつて入浴する。AさんとBさんは体を洗うと直ぐに温泉につかる。二人がお風呂から上がる頃、Cさんは入念に頭から上がる頃、Dさんは入浴する。御三方はそれぞれの自分の体内リズムと流儀に添い温泉を楽しむ。

夕食は全員で「文月の懐石」膳を頂く、盛り沢山の献立でとても全部は頂けないと思ったが、皆さん健啖家でそれぞれ平らげるのに驚かされる。食事が終わるとカラオケ会場に替わる。女性軍は歌唱力に優れ歌手さながらに歌う。Aさん、Cさんも背筋を伸ばし堂々と歌う姿に感動を覚える。

Dさんは私の知らないテンポの新しい歌を披露され、エンドレスと成りかねない程の盛り上がり楽しいひと時であった。

就眠の相部屋はE課長、FさんとGさんの四人。Gさんは哲学者の如き容貌で言葉少ないが、Fさんは口が滑らかで話がはずむ。お二人のいびきを子守唄代わりに聞

きながら眠りについた。三々五々散歩をしたり、朝風呂を頂いた後、元気溌剌で朝食を頂いて階段を歩き観賞した。那智の滝に匹敵する景観と森厳の氣に心を癒された。

戦国武将伊達正宗の居城であった青葉城址を見学、仙台市を俯瞰しながら被災した東北の地の復興を祈りつつ小平に全員無事帰着した。玄関まで見送って頂いたCさんは笑顔にたくましさが加わったと感じる。

日頃は視覚障害者と登山、聴覚障害者とダンス、知的障害者と水泳、車椅子の高齢者のガイド等のボランティア活動をしているが、高齢化が進む地域社会でボランティアを待ち望む諸団体の要望は益々増大している。中高年の方々が幾らかの時間をボランティア活動に振り向けて頂くなら地域社会が一層元気になると思われる。

ボランティア！



去る7月6日、丸井研修センターオーにおいて小平消防署主催の自衛消防訓練審査会が行われました。黎明会からは男子隊3名、女子隊3名が出場ということもあり、小平消防署小川出張所の職員の方に一からご指導いただきながら一ヶ月練習を重ねてきました。

自衛消防訓練審査

会では、正確な消火活動だけではなく顔の向きから手や足先まで気を配りそれを隊員3名で揃えなければなりません。隊員全員ができるよう個人的には台風が近くなるまで、何度も繰り返し息を揃えるように練習しました。辛かったです。当初は一連の動作を間違えずに行うことで精一杯でありましたが、大会が近づくにつれて隊員同志で改善点を話し合うことが増え、6名で団結して本番に臨むことができたと思います。また、黎明寮や澄水園、あかつきでの練習も多く「頑張って」と声をかけていたただくことが訓練の励みとなりました。

自衛消防審査会に参加して 救護施設 あかつぎ 介護職員 大山杏子

昨年の東日本大震災の経験もあり、各々の施設での非常時の対応について意識が高まっていることだと思います。ご利用者の皆さまの安全と安心を守つていかれるよう、今回の自衛消防隊での訓練を活かし日々職務にあたっています。

最後に、ご指導いただきました小平消防署小川出張所とブリヂストン東京工場と技術センターの皆さまに感謝致します。また職務の合間を縫い、練習をサポートして下さった先輩職員方、本当にありがとうございました。



男子隊 祝！ 故闘賞

お知らせ

第一回理事會・評議員會

平成24年5月30日13時から当会
黎明ホールにおいて、平成24年度
第1回理事会・評議員会を開催し
ました。

会は理事長の挨拶で始まり、平
成23年度事業報告（案）、平成23
年度収支決算（案）について審議し
全会一致で承認されました。

(事務局長
又吉)

施設リポート

◆FC東京の選手と交流

去る6月20日（水）のぞみ作業所にFC東京の選手3名が、Jリーグの地域貢献活動の一環で、作業所を訪問してくれました。のぞみ作業所は毎年、スタジアムまで応援に行くほどFC東京ファンが多く、この日は、朝からソワソワしたご利用者も多く、作業に集中出来ませんでした。平山選手・徳永選手・地元小平出身吉本選手らは、ご利用者が日頃行っている作業も体験し、簡単そうに見える作業が難しいことに感心していました。食堂で開かれた質問コーナーでは、徳永選手がJリーグ、ナビスコカップ、天皇杯の3つで「優勝を目指します」と宣言すると

◆のぞみ作業所作品展
今年度ものぞみ作業所
月18日から24日までの
たり、小川駅近くのN
リーで作品展を開催し
出展されている作品
作業所のクラブ活動で
ものを中心に、絵や書
焼き物などがありまし

今年度ものぞみ作業所では、7月18日から24日までの一週間にわたり、小川駅近くのNMC、ギャラリーで作品展を開催しました。出展されている作品は、のぞみ作業所のクラブ活動で作成されたものを中心に、絵や書道、陶芸の焼き物などがありました。さらに今年は、アクリル絵の具を使って文字を入れたTシャツやエコバッグ、風鈴といった実用的なものが多くあり、ご利用者も使う楽しみがあるので喜んでいました。

作品の数々を見ると、一つ一つにご利用者の個性が光っています。作品を良く見ることで、各ご利用者の普段の生活と違った新た



FC東京選手のみなさん

会場に「オーッ」と歓声が沸き温かい拍手に包まれました。

な一面を発見することが有り、とても面白く味わい深いものがありました。

和太鼓演奏。演奏は身体の奥に直接響きわたる大迫力。入居者様の

ご利用者は、イラストや書道、陶芸といつたクラブ活動で物を作成する楽しみ

「盆踊り」では「炭坑節」と「東京音頭」を職員が先頭に踊り出すると、入居者様、ご家族も一緒に輪の中へ。踊った入居者様は「夢のよう、夢ならさめないで欲しい」とお話ししていました。

また、ギャラリーという開かれ
たスペースで催すことにより、地
域とご利用者の接点として、お互
いの生活を繋ぐ役割も果たしてい

ました。今年で第7回となつた作品展ですが、今後も職員一同が創意工夫をして、よりご利用者が楽しみになるよう、また地域との関係を繋ぐことに努めていきたいと

◆大きいに盛り上がった納涼祭

去る7月28日、やすらぎの園4

4階黎明ホールのバルコニーにあ
ふれる程の賑わいとなりました。
入居者様はそれぞれにお気に入
りの服に着替え、お化粧をして会

場へ向いました。中には浴衣を着て、恥ずかしそうにしている入居者様もいました。



グループ『トロック』の皆さんによる和太鼓演奏

